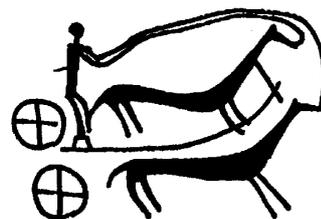


# センターニュース

Center for Research and Development in Higher Education

北海道大学高等教育機能開発総合センター

Newsletter No.18



聴いだけで分かる講義をして良いのか？ .....	4
全学教育委員会開催される .....	6
新任教官研修会開催される .....	7
物理学教育の新しい試み（講演会） .....	9
シラバスとは何か？ .....	10
UCLAにおける生涯学習の取り組み（生涯学習フォーラム） .....	11

## 巻頭言

FOREWORD

### 教師に関する 10 の考察

カリフォルニア大学バークレー校 マーティン・トロー

はじめに

私はここで自分の高等教育に関する最近の研究のことを報告するよりも、みなさんがはじめようとしている学術的専門職、教えることと学ぶこと、学術的生活について、いくつかの考えを明らかにするほうがより有益であると思います。私は教科書に書いてあることを述べるのではなく、アメリカ合衆国、イギリス、スウェーデン、その他で大学教師として働いた 40 年以上の経験にもとづいて話します。私は言語、文化そして年齢の溝をこえて話すことの難しさを理解していますが、なんとかやってみたいと思います。

10 の考察

1. つぎの数十年間にすべての国の教師が直面する 3 つの問題

若い教師は、すべての国においてつぎの数十年にわたって 3 つの緊急課題に直面するでしょう。

a. 教育に関する新しいテクノロジーが約束され、またその脅威にもさらされています。これらは、これからの十年以上にわたって大学と私たちの仕事を予想もできないほど大きく変えていくでしょう。

b. 大学入学者は年々増加し、高等教育の利用者は

拡大しますが、国からの学生当たり予算は減少します。このことは、クラスサイズを大きくし、教師が各学生に割く時間を減らさざるをえないことを意味します。

c. 今の学生たちは、最初の真の「ビデオ」世代です。実際、彼らは、あまり物を知らず、物を読まずに大学にやってきます。このため、大学での一般教育の重要性が増します。つまり、以前は学校や家庭で得ていた基礎知識の総体を教えることがますます重要になります。

## 2. 教師は技能と知識を伝授するが、さらに重要なことは精神と人格を形成すること

私たちが教えることの主な成果は、私たちの助力によって形成される若々しい精神です。大学で、私たちは、技能と知識を伝授します。そればかりではなく、学生たちの精神と人格形成にも関与します。おそらく、新しいテクノロジーは第一の役割、すなわち、技能と知識の伝授にかなり有効でしょう。しかし、テクノロジーには第二の役割を果たす能力はあまりありません。私たちは、セミナールームや研究室での学生たちとの直接的な交流を通して、重要な教育上の役割を果たし続けることになりましょう。

## 3. 大学は、年長者と若者の共同体

大学は、無知の領域を駆逐し、物事の本質や意味についてより多くを学ぶ努力をともにする年長者と若者の共同体です。私たち教師のことを考えてみますと、年長者と若者、学ぶ者たちすべての共同体は、教師と学生の立場の違いを縮め、両者の共同事業を推進します。もちろん、あなたがた教師は、少なくとも専門分野に関しては、彼ら学生より多くを知っています。そういう場面に限っていえば、アイディアや情報は、大部分が一方通行で流れるかもしれません。しかし、学生もまた私たち教師に教えているのです。私たちは、彼らが問う質問によって、彼らにとっても、私たちにとっても、何が未知であるのかを学びます。そして、やがて、私たちが抱いてきた考えがもう役に立たないこと、あるいは、新しい証拠や討論に

よって吟味し直す必要があることを卒業生たちから学ぶのです。

## 4. 学生 教師間の社会的距離の短縮

教師と学生、年長者と若者の間に横たわる地位や年齢の隔たりをどうしたら埋めることができるでしょうか。どうしたら、私たち教師と学生の共同作業、無知にたいする共同の戦いを推進できるでしょうか。まず始めに、教師は、講義で聞いたことや本で読んだことに関する討論を学生に奨励し、さらにそれを要求さえしてよいと考えます。また、私たち教師は、学生の見解を尊重し、それを訂正するのにせっかちにならないようにすべきです。私たちは教師として、学生たちをどうやって討論に仕向けるかを学ぶ必要があります。これもまた、教師の職業上の技術です。

## 5. 自らの研究を学部教育の教室に持ち込むこと

また、私たちは、自らの研究内容について学生に可能な限り早期に語るなどして、教師も同じ学ぶ者であることを気づかせてもよいでしょう。知識が教科書から自然に生まれたものではなく、苦労のすえ勝ち取られるもの、そして、多くの難点や曖昧さを含むものであることを、学部学生であっても理解しはじめましょう。こうした、知識がいかんして獲得されるか、といった感覚を盛り込んだ教科書はあまりありません。しかし、様々な研究のスタートでの失敗、実験の失敗、そして証拠の解釈の過ちが、現実の研究や学問に内在することを私たち教師は知っています。なにか重要なことに関する物事の発見という行為が、決して安易でも、きちんとしたものでもなく、複雑で曖昧で、ときには運も含むことを私たちは知っていますし、それを学生にも示さなければなりません。

## 6. 私たちの知識の限界を知ってもらうことは、学生に教師をより身近な存在とすること

あなた方自身の知識の限界、あなたの専門とする分野において、問題や疑問が、まだまだ満足すべき解答を得ていないことを学生に知らせましょう。このことはまた、あなたが、学生たちと同様

に学習者であることを明らかにすることでもあります。自分の無知を告白できないのは、未熟な教師だけに限られます。知識の限界をはっきりさせることは、あなたがたが学識において信用できることの証拠となります。

#### 7. 理由，証拠，そして独創的構想力を力説することの重要性

すべての討論では，理由，証拠，そして独創的構想力を力説しなさい。独創的構想力は新たな知識を創造するのに必要ですが，これは理由と証拠から生まれるものではありません。あなたがた自身の仕事に，文献上での創造性，理由そして証拠を結びつけて示す必要があります。

#### 8. 自分自身のアイデアと学説を支持しない根拠の重要な役割

自分自身の考え方あるいは仮説を支持しない根拠，いわゆる「反証」の役割が，大いに重要であることを，学生たちに示しなさい。反証を扱うことは，科学と学識のモラルの中心です。私たちはそのことを無視もできますし，あるいは覆い隠すこともできます。つまらないこと，例外的なことであると説明することもできます。しかし，反証を自分たちの学究の中心にすえることもできます。説明の図式の中で反証を上手に用いて，自分たちのアイデアと学説を発展させることもできます。このことは，とくに自然や物理化学の自己矯正機構がかならずしも存在しない文系や社会科学系の研究で重要です。

#### 9. 私たちの反証を扱う方法に関して，教えること (teaching) と教え込むこと (indoctrination) との違い

私たちの分野において反証をどう扱うかは，教えること (teaching) と教え込むこと (indoctrination) との違いを知ることであります。教え込むとは，学生に，事実を先行する独立したアイディアの体系，イデオロギーを構成する信念と空想の体系を教えることです。そんなことは政治家に任せおけばよい。科学者や学者の仕事というのはまったく違うことなのです。そして学生にその違

いを明確にしておくことは有益なことです。何かを強固に信じることは十分ではない。「事実は何か」ということを私たちは絶えず問いかけなければなりません。

#### 10. もし私たちが教えることに飽きているなら，学生もまた飽きている

最後に，私たちは自分の仕事に喜びを求め見つけなければなりません。自分の仕事が退屈で飽き飽きしていると思えたら，なにか基本的にまちがっています。まず，教えることが自分にとって楽しく思える方法をみつけなければなりません。私たちは，学生が楽しいと思うようにできるとはかぎりません。しかし，もし教えていることが自分にとって面白いならば，学生にとって，少なくとも彼らの多くにとって，面白いものでしょう。しかし，教えていることが自分でつまらないし，楽しくないと思うようになったら，自分は何をしているのかを考え直す時期です。そして，たぶん全く違うやり方をみつける時期です。自分の仕事を造りなおすという自由は，他の職業にはない大きな利点です。私たちは，その自由のもつ恩恵をしばしば受けるべきです。

#### 最後に

我々は一生をかけた研究や新知識の発見によって，それぞれの学問の専門分野，さらには社会や人類に寄与したいと願っております。しかし，実際には学生に教えるのではなく彼らを鼓舞することにより，我々の文明に大きな寄与をしているのかもしれない。そこで，みなさんに大学および大学院で学ばれたなかで，最も鼓舞された先生について考えてもらうことで私の話を終えようと思います。すべての方が，これまでに少なくともひとりの先生によって人生を大きく変えるような影響を受けられたことでしょうか。それでは，みなさんは学生にとってそのような影響力のある先生になれるでしょうか。

学生を鼓舞するには2つの方法が考えられます。ある先生は，あなたの人生で一番重要なときに，あなたが学生以上のものになれるという自信を与

えたのでしょうか。「君なら科学者、もしかしたら大学教授になれるよ。」ある先生は学問の探求に熱心で、あなたは学問の意義を見だし、私はこのような先生になりたいと考えたのでしょうか。いずれにしても、このような先生は学生と特別な人間関係をもつか、学問との特別な関係をもっています。また、学生を鼓舞できる先生にとって教育

は職業でも生計をたてるためでもなく、自らの人生の重要なエッセンスであり、人生の意義なのです。

(訳 阿部和厚)

この巻頭言は6月4日に北海道大学で行われた新任教官研修会における講演をもとにつくられたものです

## 手紙

LETTERS TO THE EDITOR

### 聴いただけで分かる講義をして良いのか？

電子科学研究所 下澤 楯夫

講義の初回に下記のプリントを配付しています。これまで口頭で伝えていましたが、それだけで30分以上使うので、プリントに替えました。学生は(若手の教官も?)単位の意味を全く知りません。大学として、明示するよう提案します。

「大学における単位と時間数について」

学生・院生諸君のなかには、単位は講義を聴いただけで貰えるのが当然、聴いただけで分かる講義が良い講義だと勘違いしている人があまりに多い。注意を喚起したい。

1. 大学の単位(Credit)とは、教官の指導の下で45時間の勉学をし、試験に合格したものに与えられる世界共通の「履修証明」である。

2. 北大では、1週に2講時(1.5時間)の講義を1学期(15週)受けて試験に合格すれば、2単位をもらえる。講義は22.5時間つまり0.5単位分しか受けていない。北大は、世界共通基準の4倍の水増し単位を出すインチキ大学か。

3. そうではない。大学の教官が伝える専門的な内容を理解するには、講義の前後に同じ程度の時間

の予習と復習が不可欠なので、学生が講義時間に加えて2倍の自習をしていると見做して、単位数を認定する。これも世界共通。

4. つまり、毎週2時間の講義と4時間の自習を15

週やって試験に通れば、2単位。文部省は最近、講義時間のさらに1/4を自習で振り替え、本来2時間の講義を1.5時間として良いとした。しかし、45時間 / 単位の基準が変わったわけではない。講義が減って、学生の自習時間が増えたのだ。

5. 講義では勉学時間の2/3を学生の自習に振り替えることができる。しかし、実験・実習・演習は体(頭)を使う実技が目的で、装置・材料・指導員などは大学に備え付けだから学生の自習に振り替えることはできず、丸々45時間 / 単位で計算される。最近では、実験も1/4は学生の自習時間で振り替え、毎週4.5時間の実験15週で2単位になる。しかしこれも、実験室にいるべき時間が減っただけ

で、学生に要求される勉強時間が減ったのではない。自習時間で下調べやレポート書きをしなければならぬ。

6. 上に述べたように、大学の講義は聴いただけで分かることを前提にしてはいない。講義時間外にも学生が2倍の勉強をすることを前提にしている。裏返せば、講義時間の2倍の時間の労力をかけてはじめて理解できる程度の講義が、大学の講義の世界基準である。

以上がプリントの骨子です。大学教育の改善が叫ばれ、学生による教育評価も取り上げられています。学生による評価の中で一番多いのは、「難しい。もっと易しい、聴いただけで分かる講義をするべきだ」というものです。そして、各教官には暗黙のうちに「分かりやすい講義、やさしい内容の講義」への努力が求められています。私は、この「聴いただけで分かるのが良い講義」という姿勢こそ、大学教育として問題視すべきだと思います。講義のやりっぱなしではいけないのは確かです。しかし、学生におもねて、受けの良い講義、易しい講義をしていれば、教育内容は低下します。大学が社会から付託された本来の役割（自分で考え、自分で行動できる人間の育成：平成3年2月大学審議会答申）を果たすには、学生に迎合す

るわけにはいかないのです。

現在、北大生に示されている単位制度の説明は「学生生活の手引き」192ページにある全学教育科目規定第4条だけです。そこには「各授業科目の単位数の計算は、次の基準による。(1)講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、外国語(言語文化特殊講義を除く。)にあつては、30時間の授業をもって1単位とする。(2)実験及び実技については30時間の授業をもって1単位とする。」とあるのみです。これでは、学生が「単位は講義を聴くだけで貰える」と思い込むのも当然です。

45時間/単位を明示しないのは、大学設置基準違反にもなりかねないと思います。入学時に、学生が大学と取り決めた契約(上記の1~6)を明示するよう提案します。そうすれば、意欲のある学生には「いくらでも」教え、意欲のない学生には「教えてもらっていないから分からない」のではなく「知ろうとしないから分からない」ことを明言できる。そして、勉強しない学生を山のように抱えて疲弊している今の北大の教官と職員に、もっと研究意欲と労働意欲が湧いてくる。これこそが、本当の教育の質の向上ではないでしょうか。

## 全学教育 GENERAL EDUCATION

### 全学教育委員会開催される

5月14日に第19回(平成10年度第1回)全学教育委員会が開催され、つぎのような議題について話し合われました。

議題1. 平成10年度における全学教育委員会の検討事項について

議題2. 教養特別講義プログラム推進経費による全学教育科目の追加開講について

議題3. 全学教育委員会委員の選出について

報告事項1. 「新しい教養教育への展望」に係る要望書について

議題1では今年度の検討事項が提示されました。委員長より今年度の検討課題には二本の柱があり、その1つは、医学部保健学科設置のための全学教育検討委員会の答申に盛り込まれた検討課題で

あり、もう1つは平成9年度全学点検評価委員会学業成績評価専門委員会からの提言に対する対応であるとの説明がありました。

最初に、学業成績評価専門委員会の委員長を務められた文学部の灰谷先生より専門委員会の提言について説明頂き、質疑応答を行いました。ついで、委員長より3月の評議会において了承された「医学部保健学科設置のための全学教育検討委員会」の答申についてと、5月の評議会での設置予定の全学教育運営体制検討委員会について説明がありました。

さらに、小委員長よりこれらの検討課題を含む10の検討事項について説明があり、種々審議の後、これらが承認されました。検討の具体化については、まず小委員会で審議のうえ、必要に応じて専門委員会等で議論を重ねることとしたいとの方針が了承されました。

議題2では大学改革推進等経費として、教養特別

講義プログラム推進経費の要求が認められたことに伴い、平成10年度2学期に出された追加開講計画が承認されました。議題3では、全学教育委員会規定第3条第1項第5号により選出され6月で任期終了となる3名の委員についてその継続・終了が諮られ、1名の継続と2名の終了が承認されました。

報告事項1では、広島大学において開催された、全国国立大学教養教育実施組織代表者会議において出された要望書が配布されました。最後に、その他として、教育学部須田委員より、今年度前期の時間割において、火曜日1講目の「体育学1」と法学部の専門科目である「法学入門1」が重なったことにより、開講計画に大きな支障が出たことについて説明があり、各学部において専門科目の時間割を変更する際に全学教育の履修に大きな変更が予測される場合には、責任部局に対して事前に連絡するよう要望が出されました。

## 高等教育

## HIGHER EDUCATION

### 新任教官研修会開催される

平成10年度新任教官研修会が6月4日(木)大学祭の前日、開学記念日に医学部臨床大講堂で行われました。出席者は教授25名を含む81名で、各講演のあとでは活発な討論が行われました。

このなかで、高等教育開発研究部の平成10年度客員教官のマーチン・トロー教授は、自らの長い教育経験を踏まえ、大学教師の在り方に関する考えを20分ほどにまとめ、30分は討論にあてました。高等教育では高名なトロー教授を目の前に、分かりやすい内容で討論がはずみしました。(概要は巻頭言をご覧ください)

この日の最後のセッションは、「学生が中心となって進行する授業」の体験として組み込まれました。討論の内容は、1)「学生のレベルと教育のレ

ベル」として、「学生のレベルは低くなっている」「教官はレベルの高い内容の授業を堅持する」「目標とするレベルへ到達させるための学生に合わせた授業法が重要となる」に対する意見。

2)「大学教育におけるメディア利用」として「メディア利用のアイディア：理系科目」「文系科目」、「メディア利用の留意点」でした。階段講堂の前の広いフロアに3つの机を囲んで6人グループを3つ設定し、各グループがそれぞれのテーマで作業をし、発表するという模擬授業を行いました。ここでは教室内に、小グループ学習の教室をつくり、フロアでグループ作業、発表、討論、そして聴衆と討論と、立体的意見交換が行われました。また、この光景はテレビカメラでスクリーン

に映し出されました。メディアを活用できるスタジオ型教室は、今後、研修や社会人への公開講座、学生の研究発表会などで有効に機能します。

このセッションは 21 世紀には大学の重要な役割となるメディア利用遠隔教育のデモとなりました。

## アブストラクト

### 新しい世紀への北大の展開

総長 丹保 恵仁

今北海道大学が進めている改革の中心を成すものは、(1) 大学の組織の基幹部分を大学院に置き（大学院重点化大学）、創造的な研究を進め、研究者・大学院生がいきいきと活躍する発信型の研究大学を創り、世界と競い地域の核となり、それと対になって、(2) 基礎教育を重視した 4 年一貫の体系的な学部教育を創り、全ての行動を地球環境制約の下に考えねばならない新しい世紀の諸課題に、自らの力と倫理で立ち向かう、「野心に満ちた」学生を育てる。そして、(3) 社会との連携を重視し、生涯教育を大学の課程に組み込み、新しい時代に適切に対応できるように社会人に継続的な学習機会を提供すると共に、新しい産業の基盤となる科学技術・倫理を地域に根ざして創成していく、という三つの目標です。

### 教師に関する 10 の考察

カリフォルニア大学バークレー校  
マーティン・トロ

この短い講演では、研究大学で教えることのある側面を述べます。まず最初に、すべての国で高等教育にたずさわる教師が直面しているいくつかの問題について考えます。つぎに、教えることを中心的な機能、すなわち技能と知識の伝授、および態度と人格の形成について力説します。後者については、教師は学生から学んでいるということ、学部学生の授業に教師自身の研究をいれていくこと、教師の知識は限られたものであることを示すことによって、教師と学生との立場からくる溝をせばめていくのが一番です。私たち自身の学

説や価値観に合っていない証拠も正直に取り上げていくことで、教育モラルの要求に応えます。そして私たちは、教える喜びを維持しながら、新鮮な気持ちで生き生きと学びつづけるのです。

### 学業成績評価に関するアンケート調査

成績評価がこんなにバラバラでよいのか？

高等教育開発研究部長・医学部教授

阿部 和厚

北海道大学は、全国の大学の中でももっとも大がかりな教育に関する点検評価を行っています。平成 4 年度に全学レベルの点検評価委員会が発足し、それ以来、講師以上の全教官を対象に「学生による教育指導の評価」、この評価による「教員の意識と行動の変化」、「学業成績評価」を順に行ってきました。また、平成 7 年度に開始された学部一貫教育の全学教育についてレビューを行い、学生は「成績評価」について様々な不満をもっていることが明らかになりました。最も問題なことは、同一科目でも教官により成績評価がバラバラであるという安易な成績評価法です。成績評価は、単に結果の判定ではありません。教育を構成している全ての要素に関連しています。成績評価の問題をみつかることは、教育を総合的に検証し、今後を展望する最も有効な手段となります。

ここでは、成績評価の現状、成績評価の理解、基準化された成績評価、絶対評価と相対評価、総括評価と形成評価、総括と解決すべき課題と解決方策について述べます。

## 北海道大学における研究活動の推進のために

副学長 東 市郎

### 1. 研究活動の推進

- 1) 科学研究費と特別研究員の獲得
- 2) 共同研究センターの設置  
先端科学技術共同研究センター  
産学官融合センター（仮称）
- 3) 研究活動一覧，研究者総覧（データベース化）

### 2. 全学委員会見直し

- 1) 部局長会議の設置
- 2) 委員会の統合，再編と機能的運営
- 3) 研究（推進）委員会，広報委員会の設置

### 3. 点検評価組織の再編

- 1) 問題点の明示と対策の提案  
[平成9年度の課題]  
i) 学業成績評価について  
ii) 本学の共同研究の現状と課題について  
[平成10年度の課題]  
i) 教員の教育，研究，管理運営への貢献の総合的評価  
ii) 学生の生活指導に関する評価

## 大学および大学教官にかかわる法律について

法学部教授 畠山 武道

戦後の公務員法は，上下支配関係を強調する官吏制度から「公務の民主的かつ機能的な運営」(国家公

務員法1条)を目標とするもの変わった。公務員として，あるいは一般市民としての権利が保護されるとともに，上司の命令に絶対的に服従するのではなく，法律の定められた範囲で義務をおうのである。今回は，こうした機能重視の観点から，現在の国家公務員制度と公務員法，さらに最近問題になることの多い国家賠償法などをやさしく説明してみたい。

## 学生が中心となって進行する授業 学生参加型授業の体験

高等教育開発研究部 阿部 和厚，小笠原正明，  
西森 敏之，細川 敏幸

今日，大学では大衆化した学生に，問題発見能力，問題解決能力，コミュニケーション能力，協調性，チームワーク能力，リーダーシップ，知識発見能力などを生み出す積極的学習が求められます。このためには学生を中心とする授業が威力を発揮し，一般に小グループ学習の形式が効果的です。

小グループ学習では，その科目の目標を明確にし，目標達成に向けて効果的授業を設計します。小グループ学習は，小グループの各構成員が互いに影響し合いながら責任ある作業をします。この体験学習では，各参加者が学生の役を演じながら，役割分担の原則，グループ討論，全体発表討論の意味を体得します。

表 1. 体験の手順

ミニレクチャー	20分
参加者のグループ分け	5分
ミニレクチャー 役割分担と作業目標の理解	5分
作業	
1) グループ内の役割分担	2分
2) グループ内での作業 (グループ討論と発表資料作成)	10分
3) 全体発表討論	3分発表 3分討論
繰り返し	

## 講演会のご案内

演題：SCALE-UP: ノース・カロライナ州立大学における物理学教育の新しい試み

演者：Duane Deardorf 氏（ノース・カロライナ州立大学）

日時：7月10日、金曜日、午後5時30分～7時30分

会場：高等教育開発研究部2階会議室（農学部前）

問い合わせ先：高等教育開発研究部 細川敏幸（内線2194）E-mail: thoso@pop.high.hokudai.ac.jp

ノース・カロライナ州立大学の物理学科では、物理学の教育を改善するべく、SCALE-UP (Student-Centered Activities for Large Enrollment University Physics) プロジェクトを展開しており、今後も5年あまり継続される予定です。その主要な目標は、学生数の多い学科課程に対し、「学生どうしがお互いに助け合い、学生が積極的に参加する、コンピュータを大いに利用した、対話式の」学習の場を提供するにはどうしたらよいかを検討することです。このプロジェクトのもとでは、学生は、従来からの講義形式の教育に、学生どうしの討論、学生実験が総合された教育を受けることになりま

す。同大学では、少人数のクラスでこうした教育方法を採用し、大きな成功をおさめてきました。今後の目標は、100人規模のクラスに適用できるよう、この教育方法のスケール・アップを図ることです。この教育方法についての評価報告書、教材、教師用ガイドブックなども、近く公表される予定です。（[http://www2.ncsu.edu/ncsu/pams/physics/Physics\\_Ed/SCALE-UP%20Description.html](http://www2.ncsu.edu/ncsu/pams/physics/Physics_Ed/SCALE-UP%20Description.html)にも簡単な紹介があります。）今回は、このSCALE-UPプロジェクトについて、その内容・実態などを中心に、具体的に紹介していただきます。

## シラバスとは何か？

高等教育開発研究部長 阿部 和厚

シラバスとは何か？シラバスが大学の中で真にその役目を果たさなければならない。これが、いま問題となっています。

平成9年度点検評価委員会の「学業成績評価について」の報告は、同じ科目を複数の教官が担当している場合、教官により成績評価がきわめてバラバラである現状を明らかにしました。学業成績評価は単に学生の成績を点数化することではなく、大学、学部にとってその科目はなぜ必要か、学習目標の設定、評価の基準化など、教育を根本から問い直すことでもありました。

この調査の結果、問題解決のためにいくつかの方策が提起されています。ファカルティ・デベロプメントの推進、教育業績評価の実施の必要性があげられ、この中にシラバスの在り方の検討と合意形成も含まれています。教官、学生ともにシラバスは重要であると理解できていても、実はシラバスとは何かを余り知らず、活用もしていない事実が浮かびあがってきたからです。シラバスとは何か？

21世紀は、大学がもはや象牙の塔ではありえず、社会の中に存在する責任を明確に果たしていかな

ければならない時代です。大学や各学部は社会の要請に応え、そして各科目もその役割のために存在する。別の言い方をしますと、大学と社会、学部と学部、そして各学問分野間で、連携、統合があって、各ファカルティ（教官組織の総体、同時に各教官）の存在が価値付けられ、また発展する。象牙の塔としては存在し得ないという意味はここにあり、各々が連携、統合できることで各専門性の価値が高められる時代です。

第三者評価が推奨されているように、各教官の学問や各学部の在り方が外から注目される時代です。各存在の社会的責任が問われているからです。学問の自由や学部の自治という名のもとに干渉してくれるなどはとてもいえない時代です。互いにオープンにし、相手に照らし、相手と協調し、また統合していくことで、学問の社会的価値が高められる時代となっているのであり、この転換の苦しみが今日の大学改革であるともいえます。

シラバスとは何かをもっとわかりやすく説明します。

大学は、ある社会的な機能をはたすために存在し、その存在が社会経済のなかで支援されています。国立大学でいうと税金で支援されています。ここにファカルティの義務と責任が生じます。納税者の子息である学生は高額の授業料と見合う教育を買うのであり、その品質は保証されていなければなりません。「シラバス」は商品としての教育のカタログです。学生が商品を買うまえに、どれを買うかを判定するための選択基準がシラバス

に書かれているはずですし、また、買った場合、商品がカタログのとおりであったか、内容がそのとおりであったか、成績の評価がそのとおりであったかが常に問われ、シラバスは教育を買う売買契約書のようなものともなります。だから、学生による授業評価では、必ずシラバスがとりあげられます。教官は、売りに出すまえに買手のために担当の授業を設計し、シラバスに表現しなければなりませんし、複数教官で担当する科目は教官により異なることのない品質管理が求められます。

シラバスには、授業の目標、方法と順序、評価の方法、その他の参考事項を明確に記載し、しかも、できるならば大学全体での統一した記載形式が求められます。シラバスは、学生への情報提供のみでなく、学生の学習指針であり、大学（学部）カリキュラムにおけるその科目の位置づけ、授業に対する学生と教官のコミュニケーション、教官同士の合意形成などの働きをします。同じシラバスであれば、教官が替わっても同じ目標をもつ内容が授業され、同じ基準で成績評価されます。ここでは非常勤講師であるから、評価が違ってよいなどという理屈は通用しません。実際、ある学部では、もはや講座制は存在せず、シラバスは教官で共有され、シラバスを指針に授業が展開されています。

あなたの科目は、なぜこの大学（学部）で必要なのですか。何を目標に、どんな順序で授業が行われ、成績判定はどのようにして行うのですか。高校生にも（入学したばかりの学生は高校生と同じ）わかるように記載していただませんか？

## 高等教育に関する国際会議のお知らせ

### < 天神山国際ワークショップ >

- エリートからマス段階へ，マスからユニバーサル段階へ -

客員教授として北海道大学に滞在中のカリフォルニア大学バークレー校のマーチン・トロー氏をメインゲストとして、標題のワークショップを開催します。時代とともに急速に変化する大学とその社会的役割をめぐって、学生の変化の実態、大学のカリキュラム、教授法の改善などを具体例として議論します。10-15分のプレゼンテーションのあと、15-20分のディスカッションを行い、討論中心のワークショップとします。参加希望者および発表希望者は7月5日までに担当者にご連絡下さい。

日時：7月20日(月)(休日)午前11時から午後5時まで。途中1時間の昼食。

会場：札幌天神山国際ハウス(札幌市豊平区平岸2条17丁目；電話：011-823-1000)

使用言語：英語

問い合わせ：高等教育開発研究部 小笠原正明  
(電話：011-706-2193；ファックス：011-706-4922  
；e-mail: masaaki@pop.high.hokudai.ac.jp)

札幌天神山国際ハウス

## 生涯学習

LIFELONG LEARNING

### 講演会のご案内

生涯学習フォーラム - UCLAにおける生涯学習の取り組みについて -

カリフォルニア大学ロスアンゼルス校(UCLA)のエクステンションセンターの運営に関わり、現在は神田外語大学の客員助教授を務めておられる、ルイス・フィリアンテ先生をお迎えして、UCLAのエクステンションをはじめとする生涯学習への大学の関与、継続高等教育の現状について報告をしていただきます。生涯学習および継続高等

教育に関心のある方は是非ご参加ください。

日時：7月8日(水) 午後2時～5時

会場：高等教育機能開発総合センター会議室

問い合わせ：生涯学習計画研究部 木村 純

(電話：011-706-5286)

# センター日誌

CENTER EVENTS, Apr. - May.

## 4月

- 7日 ・ 新入生オリエンテーション
- 8日 ・ 入学式
- 9日 ・ 学部ガイダンス  
・ (会議) センタ - 長・部長会議
- 10日 ・ 第一学期授業開始
- 13日 ・ SCS 視察 (室蘭工大庶務課 2 名)
- 17日 ・ (会議) 教務委員会ワ - キンググル - プ
- 22日 ・ (会議) 大学放送講座に関する打合せ (学内関係者)
- 23日 ・ (会議) 第 30 回センタ - 連絡会議  
・ (会議) 第 11 回高等教育開発研究委員会
- 23~24日 ・ (会議) 国立七大学共通教育主幹部局長会議 (東大)
- 27日 ・ 「センタ - ニュ - ス」 第 17 号発行
- 30日 ・ (会議) 第 21 回センタ - 運営委員会

## 5月

- 7~8日 ・ (会議) 全国国立大学教養教育実施組織代表者会議及び事務協議会 (広島大)
- 11日 ・ 大学放送講座の将来をめぐる SCS 研究会 (第 1 回)
- 14日 ・ (会議) 第 19 回全学教育委員会
- 19日 ・ SCS 視察 (小樽商大教務課 3 名)
- 20日 ・ (会議) 第 6 回教務事務システム専門委員会
- 25日 ・ 大学放送講座の将来をめぐる SCS 研究会 (第 2 回)
- 26日 ・ (会議) センタ - 長・部長会議
- 27日 ・ (会議) 第 24 回全学教育委員会小委員会
- 29日 ・ (会議) 第 12 回放送教育専門委員会

# 行事予定

SCHEDULE, Jul. - Sep.

	【日(曜日)】	【行事】	【備考】
7月	17(金)	第1学期授業終了	
	21(火)~8月18(火)	夏季休業日	
8月	19(水)~21(金)	補講日	
	24(月)~9月4(金)	定期試験	
9月	8(火)正午	定期試験成績提出締切	
	8(火)~11(金)	追試験	
	11(金)正午	追試験成績提出締切	
	中旬~下旬	学科等分属手続	当該学部

### 編集後記

トロウ博士によれば、世界の高等教育システムはマス化を経てユニバーサル化に突入しています。これは教育のみならず、研究のマス化を意味します。博士達は、これを研究システムのモードの変化としてとらえようとしています。モード論によれば、今の時代は、個人的興味による研究(モード1)から社会の要請による研究(モード2)への転換点です。社会から大学への要請が、知識供給から知識生産へ変わるとき、大学の組織やわれわれの責任をどう変えていけばよいのでしょうか。われわれに与えられた新たな課題です。(才)

### センターニュース 第18号

(北海道大学高等教育機能開発総合センター広報誌)

発行日: 1998年6月25日

発行元: 北海道大学高等教育機能開発総合センター

〒060 札幌市北区北17条西8丁目

電話 (011)716-2111 ・ FAX (011)706-7854

編集委員: 小笠原正明・西森敏之・細川敏幸・

町井輝久・山口佳三

ご意見、お問い合わせは 印の編集委員まで

電話: (011)706-2194; FAX (011)706-4922

インターネット ホームページ: <http://infosys.academic.hokudai.ac.jp/center>